



小田 新紀 議員  
(拓政会)

**問**

都会の高校生が、修学旅行時  
にありのままの「農村生活」  
を体験する農村ホームステイ事業  
は、今年度、十勝全域で約3300  
人の受け入れが行われた。本町の立  
地・農家数・規模などを鑑みると、  
管内においてその役割を果たして  
いくべき効果・価値は高く、今後の  
さらなる推進のためには、町民全体  
でその価値を共有していくことが  
必要と考え、次の点について所見を  
伺う。

- (1) 今後の本事業に対する町長の見解。
- (2) 町民全体で本事業推進のための体  
制づくりについて。

**町長** (1) 事業を通して、日常生  
活では経験できない農作業を体験  
したり、大自然を体感する中で、  
幕別農業のファンになってもら  
い、幕別町がいつでも帰れる「第  
2のふるさと」になることを期待  
している。本町の基幹産業である  
農業と幕別町を末長く発信する上  
で重要な役割を果たしている。  
(2) 受入農家の拡大に努め、事業の

**問** 農村ホームステイ事業の今後の展開について  
**答** 受入農家の拡大に努め、本事業の重要性  
を町民へ幅広く発信する



農村ホームステイ事業で農作業体  
験する高校生の様子

重要性を町民に幅広く発信すると  
ともに、参加した子どもたちには、  
食の安心、安全への取り組みにつ  
いて理解を深めてもらい、幕別農  
業の応援団になってもらえるよう  
入村式で本町のPRを行うことや  
事業終了後も子どもたちとのつな  
がり期待できるような取り組み  
についても、農業者や関係団体との  
連携を深めながら進めていきたい。

**再質問** (1) 受け入れ農家数の減少  
要因と今後の対策について。  
(2) TPP対応などの消費者への意

識改革、あるいは後継者対策にも繋  
がる大きな事業ではないか。

**答** (1) 農家の負担になることが要  
因と考えている。今後、農協から  
の情報により協力農家の掘り起こ  
しをしたい。

(2) 農業への理解や、花嫁になつて  
いただきたいなど、いろんな意味合  
いがこの事業には込められている。

**問** 東日本大震災における東北復  
興支援の今後の展開について  
**答** 支援要請を受けた際には、最大  
限の支援、応援を行いたい

**問**

東北地方においては、震  
災直後と比べて被災者の  
状況が多種多様化し、支援体制が  
一層複雑化している。継続的に支  
援を続けている町内団体や個人と  
ともに、復興後も相互補完が続く  
ような官民一体となった支援策が  
必要と考え、次の点について伺う。

(1) これまでの町の東北復興支援の  
取り組みに対する総括。

(2) 今後の東北復興支援に対する考  
え方と具体的方策。

**町長**

(1) 救援物資の支援では、  
町の災害備蓄品から毛布と非常  
食、町民から提供を受けた生活用  
品や学用品などを被災地に届けた。

義援金の支援では、役場など5  
カ所に募金箱を設置し、平成26年  
度末現在で1519万5170円  
の義援金が寄せられたほか、町か  
らは300万円を贈呈した。

人道支援では、町職員2人、消  
防職員5人を派遣し、宅地危険判  
定業務や行方不明者の捜索にあた  
り、受入支援については、被災者  
の受け入れのため住宅などを用意  
し、1年間家賃無料で提供した。

(2) 被災者が安全、安心に暮らせる  
完全復興までには、まだまだ長い  
道のりかと思うが、今まで行って  
きた支援策を継続するとともに、  
新たな支援要請の際には、最大限  
の支援、応援を行っていききたい。

**再質問** 教訓から学び、今後の町  
の防災体制の充実のためにも、職  
員派遣など継続的・積極的な支援  
体制が必要ではないか。

**答** まず町民のため仕事をする。そ  
の中で要請があれば支援していき  
たい。